

令和元年度 安曇野市地域包括支援センター運営協議会(第1回) 会議概要

| | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 令和元年度 第1回地域包括支援センター運営協議会 |
| 2 | 日 時 | 令和元年5月30日(木) 13時30分から15時20分 |
| 3 | 会 場 | 安曇野市役所本庁舎 301会議室 |
| 4 | 出席者 | 中村委員、丸山委員、篠町委員、杉本委員、米倉委員、飯島委員、大日向委員、 青柳委員、松井委員、黒澤委員、増田委員、三澤委員 欠席：藤岡委員、海老原委員 |
| 5 | 市側出席者 | 高橋保健医療部長、藤原介護保険課長、丸山介護保険課長補佐、 奈良澤介護保険担当係長、中澤介護予防担当係長、内山認定調査係長、 濱介護予防担当係長 中央地域包括支援センター：乗松保健師、藤澤(芳)主任介護支援専門員、 宮入社会福祉士、高田社会福祉士、横川介護支援専門員、 鍵田介護支援専門員 南部地域包括支援センター：山岸管理者、丸山主任介護支援専門員、 石井介護支援専門員 北部地域包括支援センター：前田管理者、伊藤保健師、山田社会福祉士、 宮澤主任介護支援専門員、宮下介護支援専門員 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和元年6月 日 |

協 議 事 項 等

会議の概要

- 1 開会
- 2 委嘱書交付
- 3 部長あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 会長・副会長選出
- 6 会長・副会長あいさつ
- 7 協議
 - (1) 平成30年度地域包括支援センター事業報告について
 - (2) 令和元年度地域包括支援センターの運営及び事業計画、予算(案)について
 - (3) 令和元年度第1号介護予防支援事業及び指定介護予防支援事業委託先事業所の選定(追加)(案)について
 - (4) 安曇野市南部地域包括支援センターの業務委託の方針(案)について
- 8 その他
- 9 閉会

協議内容

- 1 協議
 - (1) 平成30年度地域包括支援センター事業報告について
質疑なく了承
 - (2) 令和元年度地域包括支援センターの運営及び事業(案)について
委員：資料2の9ページ北部地域包括支援センター事業計画(案)の3. 地域の実状に応じた取り組みで包括的支援体制の構築に寄与できるよう努めますとある。これは北部のみならず南部及び中央地域包括支援センターも大きな課題になっている。どのように努めていくのか教えていただきたい。
事務局：地域の色んな課題がありますが、それに対して関係機関の方からご意見をいただいた

り、北部包括支援センターは8名で運営しています。地域の皆さんと関係機関とのつなぎ役として頑張っていきたい。

委員：連携を密にして一つ一つ拾い出していく方向性なのか。

事務局：隣組に加入されていない方は、周りから孤立されている方が多いと思う。独居老人の方は民生委員による調査していただいている。民生委員並びに地域の資源と連携して見守っていくことが重要だと考えている。

委員：資料2の9ページ同じ箇所です。穂高地域の課題として具体的に記述があるが、他の地域の課題については、具体的に明示されていないのでどんな特性があるか知りたい。

また昨年度の資料では、市全体の高齢化率の他に地域別の高齢化率についても記載されていたと思う。地域によって高齢化率は違っていた。そういった特徴から具体的な課題を拾い上げて欲しいと思った。

事務局：中央地域包括支援センターは明科・豊科地域を担当している。明科地域は高齢化率が高く山間地もあり足の問題などがある。今はご近所の古くからのつながりがあり生活ができているが、その方々が高齢化となり支援が必要になってくると考えている。一方豊科地域は、アパートで独り暮らしをされている高齢者の方がいる。こういった地域差がある中で、その方に合った支援を考えていかなければならない。豊科地域では、昭和30年代に造成された団地などは、一気に高齢化が進み課題を抱えていながら隠れていた高齢者が近年見えてきている状況がある。訪問や民生委員と連携する中で一つずつ情報を得ながら支援していきたい。

南部地域包括支援センターは三郷・堀金地域を担当している。三郷地域は世代間同居されている方が多い中で、松本市のベッタウンということもあり転入者が多く区に加入されない方も増えてきた。民生委員さえ知らない方もいるので、ご近所の方、お知り合いの方から情報などを得ながら支援にあたっている。堀金地域は、古くからのつながりが強く地域の力が強い。ご家族で支えきれないところを地域が支えている。いよいよ大変になってきた時にはじめて包括に相談にこられるケースが多々ある。近所ぐるみで頑張っていたと思いますが、もう少し早く相談していただければと思うこともある。今以上に地域の皆様とお話し合いをする中でお願いし支援していこうと考えている。

委員：社会福祉協議会や包括支援センターに住民の方がアプローチするのは、一般的には、いよいよダメになった時になるのか、それとも入院した時に病院からなのか。現実的には、いつ包括支援センターと接点をもつのか。本人が困った時に相談するのが基本なのか。だとしたら独居やアパートに住まわれている高齢者は情報リテラシーが低い。

委員：民生委員の立場から言うと独居老人の調査をする際に課題問題点を聞き取りして、社協、市へつなげる作業を毎年行っている。区に加入していない人も市で把握している。

事務局：介護予防事業で実態調査を行っている。対象は70歳から85歳でその間に1回調査している。独居、独居でない方を問わず保健師が訪問させていただき年間300件くらいである。

実態調査の結果、状況が悪い方については、包括支援センターにおいて訪問し状況把握を行っている。

委員：一般の方には、分かりにくい内容。アパートの住民の方の具合が悪くなったが自分も実際どういう風になっているのかわからなかった。

事務局：包括支援センターが関わるケースはいろいろある。ご自身、ご家族、ご近所から心配されて相談されるなどある。また独居老人の方などが入院され退院される際に医療機関から連絡があるケースも増えてきている。

委員：現実的であった虐待問題であるが、親が障がい年金を使い込んで施設利用料などを半年間払っていない。通報する場合、出身地特例の行政に通報するのか施設所在地の行政に通報するのか。

事務局：どちらにしても、施設所在地の行政と支給決定をしている行政が連携していくこととなる。養護者が虐待しているので、出身地の行政へ通報すると思うが、どちらに通報しても対応していくことと思う。成年後見制度の市長申し立てを行い、そのうえで施設への支払いを

するという方法もある。問題を解決するために成年後見制度を利用するという考え方もある。

委員：北部包括支援センターの事業計画の中に空き家問題があるがどのように対応するつもりか。行政ではどのように対応しているか。

事務局：解決する具体的な方法は提案できていないが、地域に入りお話を聞き出して課題を見つけている段階である。

市としては、昨年度から各区の区長さんを通じて空き家の調査に着手した。本腰を入れて取り組み始めた。

委員：民生委員は独居老人の実態把握を行ったり、包括は色々な相談に対応されている。市は70歳以上の方を訪問調査されている中で、南部包括で話があったもう少し早く相談に来てくれたらと。そのような課題に対して包括としてどのように取り組んでいくのか。待っているだけとの印象があった。

事務局：市民の包括支援センターの認知度は、必ずしも高いとはいえない。地道に広報活動行っていく。また今後広報等の方法を検討しなければならないと考えている。

委員：資料2の4ページ認知証見守りネットワークはどのように行っているのか。地域の認知症の相談に行きづらい人を認知症地域推進員は把握しているのか。

事務局：認知証見守りネットワークは、個人情報の関係上、認知症のご家族の同意をいただき、ケアマネジャーを中心に徘徊するコースがだいたい決まっているので、郵便局、商店の方々に写真や連絡先等の情報を伝え、いつもと違った行動があった場合に連絡していただいている。

委員：個人情報の問題があるので徘徊の危険がある場合、ご家族の了承を得たうえで、ご近所をお願いにあがる。また社協の「ささえあい」がある。行政に頼るのではなく、徘徊をする高齢者を近所でどう把握していけばよいかを家族で話し合っ、周りをお願いすることがベストだという思いがある。

委員：ケアマネジャーは1週間に2,3回しか来ない中で独り暮らしだと相談する相手もない。

委員：ケアマネジャーとご近所さんと会議が開かれるのでそこで対応できると思う。地域に対しての啓発は必要。

事務局：独居の方もいらっしゃる。また家族と同居されていても日中は仕事をされているので、ほぼ独居になってしまう。介護保険を利用されると担当者会議をケアマネジャーが開いてご近所の方も参加される。ここでは現状やどのように支援していくかを話し合う。ご近所の方の支援を受けながらその人らしい生活ができるように少しずつやっていくということ。

了承

(3) 令和元年度第1号介護予防支援事業及び指定介護予防支援事業委託先事業所の選定(追加)(案)について

質疑なく了承

(4) 安曇野市南部地域包括支援センターの業務委託の方針(案)について

質疑なく了承

2 その他

委員から発言なし

(第1回地域包括支援センター運営協議会閉会)